

令和7年度 学校評価報告書

四国中央市立小富士小学校

1 教職員自己評価

A…よくできている B…できている C…あまりできていない D…できていない

			保	児	評価項目	A	B	C	D	自由記述	考 察
教育課程	大田	1			学校の教育目標の具現化のため、学年経営・学級経営など、教育実践に努めている。	46	54			・綿密に練られた計画に基づき進められていた。	・時数が多くなりすぎる（特に1年生）ことが予想されるので、インフルエンザ等の学年閉鎖がないのであれば計画的に減らしていきたい。
		2			週案を活用して、計画的な授業確保と記録の蓄積を行っている。	50	50				
学力向上	石村	3			学習習慣・学習規律（返事、挙手、聞き方、話し方、立腰、静と動の切替えなど）の指導が継続的にできている。	33	67			・学力の基礎・基本の定着には時間が掛かると思われるが、今行っているドリル学習や書く活動などの学力向上推進計画にあることを続けていくことが大切だと感じている。年度が切り替わる際には、見直しをして学力向上を目指していきたい。 ・自分で考える時間を毎時間積み重ねていくことで、自分で考える力が付く。教師の説明や指導を除き、児童が主体的に活動する時間が授業の3分の2程度をイメージすると良いのでは。 ・担当者を中心に学校全体で取組を行っている。 ・忘れ物が多いので、持ち物や宿題忘れのチェックを定期的にする。	・学力向上推進計画を基に今現在続けているドリル学習を行っていく。年度末には振り返りをし、来年度に向けて見直していく。 ・忘れ物が減るように事前の声掛けを意識する。実態や状況に応じて確認も行っていく。
		4			授業のユニバーサルデザイン化を意識した授業を実践している。（焦点化・視覚化・共有化）	55	36	9			
		5			授業の中で、書く力や話す力を付ける活動を積極的に行い、力が付いてきている。	40	60				
		6			ノートの指導や点検を行っている。	56	33	11			
		7	⑤	⑤	学習でつまずきがちな児童への指導・支援を適切に行うなどし、目標が達成されている。（国語科・算数科の単元別テストの平均正答率80%）	30	60	10			
		8			読書の習慣が身に付くような指導を行い、成果が出ている。	20	60	20			
		9			学力向上推進計画で定めた目標値は達成できている。		90	10			
		10			忘れ物をしないで、学習用具の準備がきちんとできている。	20	70	10			
現職教育・研修	鈴木あ	11			研究主題・研究内容・研究方法を理解し、進んで取り組んでいる。（2部会での取組事項など）	20	70	10		・今年は、人権・同和教育の会場校であったが、人権・同和教育主任や研修主任の先生の計画で、忙しい中、やり抜くことができた。 ・最新の教育事情に合わせて、学びが深く、使える知識・技術を身に付けるための研修であった。	・今年度は、基礎研の先生が多く、研究授業、研究協議等を通してみんなが研修を深めることができた。特に若年の先生方が熱心に教材研究に取り組み、すばらしい授業実践をされているので、研修を通して、一人一人がヒントや手掛かりをもらい、自分の授業改善につなげることができたと感じた。次年度は、市同研の実践発表が予定されているので、3学期から計画的にできることを進めていく。
		12			自身のキャリアステージを意識し、求められる資質・能力の向上に努めている。	50	50				
特別支援教育	北村	13			個別の支援計画・個別の指導計画に基づいた支援・指導を着実にを行っている。	64	27	9		・支援学級と交流学級がつながりが深く、学びの効果が出る工夫や個人を思いやる教育がなされている。	・児童の特性を考え、交流学級の中でも学習効果上がるように指導計画を実行し、支援を行った。学習については、相互理解をした上で、話し合いを進められていた。3学期も継続して取り組んでいきたい。 ・交流学級で役割を果たせるよう学級担任と協力して活動できた。本人の参加と自己決定を尊重し、児童がいきいきと活動できるようにしていきたい。
		14	⑦	⑦	一人一人の児童の特性を理解し、よさや可能性を伸ばす教育実践に努めている。	73	9	18			
		15			特別支援学級の児童と交流学級の児童が積極的に交流し、関わったり、教師間の連携を図ったりしている。	64	27	9			
道徳教育	薦田	16			道徳の授業において学校行事や特別活動、生活等との関連付けをしながら、道徳的な実践力が高まるように努めている。	40	60			・普段の授業はもちろん、生徒指導や日頃の関わりからも道徳性を養おうとしている。	・今年度は、市同研と参観授業があり多忙だったが、みんなで道徳科の研究を深め、授業に臨めた。どの学級も、児童の実態を踏まえて教育活動全体を通して、道徳教育に取り組んでいる。 ・一方で、市同研での研修を除くと、道徳の授業は個人の研究のみに偏っている。「考え、議論する道徳」を目指して道徳性を養えるように、更に改善を図れるように話し合いや共有の機会の必要性を感じた。
		17			道徳性を育てる環境整備に努めている。（教室・校舎内掲示・家庭との連携等）	45	55				
		18			児童の学習状況や成長の様子を適切に評価し、指導方法の改善・充実に取り組んでいる。	36	64				
		19	②	②	友達に対し、優しい気持ちで接する児童が育っている。	36	55	9			
人権・同和教育	薦田	20			同和問題解決への姿勢を確立するための職員研修に努めている。	82	18			・優しい言葉遣いの推奨。児童の言葉遣いが気になる。転校生に対して厳しい感じを受けるので、新しい仲間を温かく迎えられるようにしたい。 ・研修が多いが、負担にならない参加を今後考えたい。 ・市同研で授業をして、仲間づくりは本当に大切だと思った。自分のいいところを探し、友だちのいいところも探すことは、自分も相手も大切にすることにつながると思った。授業が終わった後、子どもたちがみんなが大切、みんなを守ると言っていて嬉しかった。この心を大切にして、みんなを大切にできる子どもたちを育てていきたい。 ・人権学習を地域とのつながりの中で深め、考えの広まり、実践力が伸びていくような学びあるものにし、人権感覚を育てようとしている。	・心は、言葉に表れるので、常にアンテナを張る。この言葉はどうなのかと迷ったときはその都度、教職員で情報を共有していく。必要であれば児童に全体で指導を行い、早期解決に努めていく。 ・市同研に向けて授業研究を重ねるたび、児童の成長はもちろん、教師自身も授業力が大きく向上したと感じる。 ・3学期は特に、地域とのつながりを意識し人権感覚を育てていく。2月18日（水）の研修では、R8年度実践報告に向けてのレポートを発表し合う。内容は、地域とのつながりを深め、児童の実態から手立てを実践し、変容を見取った成果や課題を伝えられるようにしておく。
		21		⑨	不合理や矛盾・差別に気付き、解決していくなかまづくりにも努めている。	64	36				
		22			家庭や地域に対して、積極的な啓発活動に努めている。	55	45				
生徒指導	石村	23	④	④	あいさつ・「はいっ」の返事・はきものそろえなどの指導を継続的に行い、児童に身に付いている。	18	73	9		・ルールを守らない児童、校外での過ごし方によるトラブルなどが起きることが何度かあった。落ち着いた児童も見られるため、教職員や保護者・地域との連携を続け、安心・安全に学校生活が送られるようにしていきたい。 ・子どもに向き合い、人として大切なことを伝えていくことを、必要に応じて行っている。 ・前もって保護者に伝えているので、保護者も見通しを持って動くことができていると思う。 ・服装や生活面の学校のきまりを守る。授業と休みの時間のけじめをつける（チャイムが鳴り終わるまでに教室に戻る）等。	・児童の中に悩みや困り感を持っている場合があると思われるので、普段からの関わりを大切にし、定期的な面談を活用して安心して学校生活が送れるようにする。 ・ルールの徹底や、人として大切な人権感覚などについてその都度話していくと同時に、全校集会などでも定期的に伝えていく場を今後も続けていく。 ・時間や服装についてもう一度子どもたちと見直し、学校全体での指導を徹底していく。
		24			児童観察やアンケートに基づいた教育相談を実施し、全教職員による共通理解を図り、いじめ・不登校問題等の未然防止・早期発見・早期解決に努めている。	55	45				
		25			必要に応じて家庭や地域・関係諸機関と連携を図っている。	70	30				
		26			黙って時間いっぱい掃除をしている。	36	55	9			

安全指導	鈴木て	27			廊下歩行や遊具・教具の適切な使い方、熱中症予防、不審者対応など生活安全に関する指導を適切に行っている。	36	64			・安全に配慮し、教育活動を進められている。 ・廊下を走る児童がいるので、見掛けたらその都度指導していきたい。	・避難訓練や防災訓練（消防署訪問）など、適切な指導が行われている。 ・安全面においては、分かっていると思わず、その都度危険だと感じたことは指導していきたい。
		28	⑧	⑧	避難訓練、防災訓練など防災に関する指導を適切に行っている。	91	9				
体力づくり	岡田	29			ITスタジアムやマラソン等、体力づくりに継続して取り組みもうと努めている。	40	60			・ITスタジアムに向けて、長縄の練習に励んでいる。長縄が怖かった児童も、どんどん跳べるようになってきて、保護者から長縄が楽しいと家で言っていますというメッセージをもらった。 ・縄跳びの台を用意したり、体力づくりのための取組も細かく話し合ったりしながら実施されている。 ・相談すると、なわとびカードの準備やITスタジアムの登録・更新など、適宜主任が対応してくれ、体力づくりがスムーズに進められた。	・ITスタジアムの積極的な参加が増え、運動が苦手な児童も前向きに取り組んでいけるような目標を学級で決めたり、声掛けなどをたくさんしていく。 ・全校遊びや縦割り班での活動を増やし、更に体を動かすことへの取組をしていき、体力向上を図っていく。 ・ITスタジアムの期限が迫っているので、計画的な実施を行う。 ・なわとび大会に向けての練習やマラソンタイムなどを通じて、体力づくりを行っていく。
		30	⑥	⑥	中休みや昼休みには、運動場に出て友達と元気に遊ぶことができている。	36	46	18			
学校保健・健康教育	大判	31	③	③	「早寝・早起き・朝ご飯」など健康的な生活習慣・リズムが定着するよう啓発や指導をし身に付いている。	36	46	18		・安全で、健康に過ごせるよう指導がなされている。 ・児童の怪我だけでなく、心の面も継続的にサポートしてくれ、児童が元気に学校に来ることができている。 ・小学校は給食の準備から片付けまで４５分であるが、中学校は３５分かつ昼休み無し（土居中学校）なので、時間内に食べきれるように声掛けをする。	・朝ごはんの未摂取や睡眠不足で体調不良を訴える児童は少なかったように感じる。しかし、水筒やティッシュ・ハンカチを持ってきていない児童が多く見られた。健康的な生活習慣の一つであることを理解し、教室での指導を並行して行っていく必要がある。 ・自宅で食べないものに抵抗感を感じる児童が多い印象がある。保健便りや掲示物を通して食育を推進していく必要がある。
		32			児童が安全に気を付けて生活できるよう、学校内外の安全指導を適切に行っている。	36	64				
特別活動	岡田	33			学級活動（話し合い活動）の充実に努めている。	20	80			・自然の家や、修学旅行等も工夫し、そこから多くのことを学び、可能性を広げるような工夫がされている。 ・児童の怪我だけでなく、心の面も継続的にサポートしてくれ、児童が元気に学校に来ることができている。 ・委員会活動では、自分の役割を果たそうとしている姿が見られた。 ・３学期にふるさとふれあいウォーキング、ふるさと集会、送別遠足と特別活動が三つもあり負担である。行事削減も考えてほしい。	・特別活動だけではなく、授業や普段の友だちとの会話の中で、思いを伝えることの大切さを学んでいくことが大切である。 ・２学期は、朗読集会など他学年との交流を通して、新たな考えに出会える機会を多く確保することができた。普段の縦割り清掃の時間だけではなく、行事を通して他学年との考えの交流を大切にしたい。３学期は、ふるさとふれあいウォーキングや送別遠足、ふるさと集会など他学年と交流する機会がたくさんある。他学年や地域の方との交流を大切にしていく。
		34			委員会活動、係活動を通して、児童に自主的・実践的な態度が育っている。	55	45				
		35			キャリア教育の視点に立った教育活動を実践している。	27	64	9			
情報教育・情報管理	高橋つ	36			情報モラルに関する指導を発達段階に応じて行っている。	30	60	10		・校務で使用するパソコンや情報は、共有する意識を今後も持ち、３学期以降も情報の保存先等を一元化していきたい。 ・最新の技術を使い、個人の情報等についても守るように気を付けている。 ・情報端末の使用についてのルールや決まりの見直しを定期的にしていくとよいと感じている。	・児童の学校内外でのICT機器の使用について、ルールや使用方法の見直しを、情報モラル教育と合わせて行っていく。 ・校務用スマートフォンが３学期から導入される。校務の情報化を進めると共に、教員の情報セキュリティ意識の徹底を再度確認していく。 ・ICT機器を学習に使用する際は、児童にどのような能力を身につけさせたいか具体的な目標を持って取り組んでいきたい。
		37			プログラミング教育年間指導計画で示された機器の基本的な操作ができるようになっている。（１学期：全学年の目標　２学期：該当学年の目標）	22	78				
		38			タブレット、書画カメラ、大型提示装置などICT機器の効果的な活用にも努めている。	55	36	9			
		39			校務支援システム・ミライムを積極的に活用し、校務の情報化に取り組んでいる。	46	45	9			
組織・運営・教職員	教頭	40			諸行事の計画・実施・運営は適切である。	30	70			・病休者がいる中、協力的に仕事を引き受けていただき学校運営が滞ることなく学期末を迎えられたのは本当にありがたい。 ・事前の報告は学級担任同士、管理職にはほぼできているが、事後の報告（どうなったかの報告）がない場合があるので、不安に思うことが多い。 ・行事の精選を行う必要性を感じている。今の数は、先生方に負担になっていないだろうか。 ・教職員が協力して、学校運営をしていこうとしている。 ・市同研に向けて、たくさんの先生方に支えてもらった。プレッシャーもあったが、「大丈夫よ！先生！」という言葉など温かい言葉をたくさんもらった。また、授業準備や授業に関する相談など様々なところで支えてもらった。自分の力だけでは絶対に乗り越えられなかった。次は自分が助けたい。今年度もあと少し。支え合っていきたい。	・２学期は病休者もいた中、先生方が一人一人踏ん張ってくださり、乗り越えることができた。ありがたかった。 ・教職員同士の会話の中や、管理職への報告により大事に至らなかったことがたくさんあった。できるだけ普段から子どもたちは勿論、自分たちの身も守るためにも、会話を心掛けたい。 ・自分一人ではできないことの方が多い。感謝の気持ちを伝え合う職場でありたい。 ・行事の精選を考えていきたい。
		41			自分の校務分掌を果たし、教職員組織がよく機能するよう努めている。	27	73				
		42			報告、連絡、相談を確実に行き、教育公務員としての適正な服務に努めている。	46	54				
		43			業務改善を意識し、超過勤務になりすぎないように仕事の効率化を図っている。	36	55	9			
施設・設備	教頭	44			教科等の指導に必要な設備・備品等の管理・保管・整理は適切である。	36	55	9		・建物の築年数等の関係で破損箇所等もあるが、直して使用している。 ・老朽化しているので、安全点検をしながら、チェックだけではなく、自分の担当場所のガムテープで補強している床やロッカー等の確認（直し）をしてほしい。	・床の修繕を迅速にしていいただき、安全に子どもたちが生活できるようになり、ありがたい。また、網戸の修繕も有志の先生方がしてくださった。ありがとうございました。 ・体育館や北側の窓が開いていることが多いので、手でも施錠しているか確認したい。
		45			校地・建物・施設・設備等の点検整備は適切である。	60	40				
		46			危機管理マニュアルを活用し、安全対策に努めている。	27	73				
		47			教育の場にふさわしいように教室等の環境を整えている。	36	55	9			
		48			個人情報の管理や金銭の管理、施錠等を適切に行っている。	55	45				
保護者・地域との連携	大田	49			電話や家庭訪問、連絡カード（ノート）など保護者との連携を密にし、信頼関係づくりに努めている。	64	36			・地域の人達とのつながりを大切に学校行事等が進められている。 ・地域や電話で話すときには、学校の顔として話している意識で今後もお願いしたい。 ・保護者との適度な距離感（個人的に仲良くなりすぎない）が大切。	・地域の方に助けられていることが多いので、これからも積極的に関わり、人間関係を構築していきたい。
		50	⑩	⑩	コミュニティ・スクールであることを意識して、連携が進むように自らが受容的・積極的な対応を行い、保護者等の人材開発と活用による、地域を巻き込む教育実践に努めている。	40	50	10			
		51	⑨		「子供便り」や「子供便り」等を活用し、学校の力や活動を保護者や地域の方に理解してもらうよう努力している。	50	40	10			
その他										・学校行事の持ち方について検討すると良い。例年実施しているものを踏襲しているが、先生方の負担になっているものを見直すとして良い。フリー参観日、朗読集会、ふるさと集会など。 ・PTA理事会は、体育館でなく図書室を利用すると準備が楽だった。	・行事の精選、実施時期も含めて検討する。

※ 保・児の数字は、保護者アンケート、児童アンケートでも行った項目を示す。